



赤い羽根の中央共同募金会

訂正 2018年9月28日

2018年9月18日

平成30年7月豪雨災害 ボランティア・NPO 活動サポート募金（ボラサポ・豪雨災害）

第1回助成決定にあたって

はじめに

6月28日から7月8日にかけて、西日本を中心として広い地域が集中豪雨に襲われ、河川の氾濫や洪水、土砂災害など、人的被害を伴う甚大な被害が生じました。

この豪雨災害により亡くなられた方々に心よりお悔み申し上げます。また被害を受けられた方々には謹んでお見舞い申し上げます。被災された方々と被災地域の復旧を心よりお祈り申し上げます。

被災した12府県59市町村では、災害ボランティアセンターが開設され、ボランティアグループやNPO等による、救援・復旧・復興のための支援活動が行われ、現在も活動が続いている地域があります。

この状況を受け、中央共同募金会は、平成30年7月豪雨災害 ボランティア・NPO 活動サポート募金（以下ボラサポ・豪雨災害）を開始し、各地でボランティア活動を行うボランティアグループやNPO等を資金面で支援し、被災地と被災者を支える活動に助成を実施することとしました。

9月7日、ボラサポ・豪雨災害の第1回目の助成先を決める運営・審査委員会（以下委員会）を開催し、95件、合計3,512万円の助成を決定いたしました。

この助成により、被災した地域の復旧、復興と被災された方々の生活再建の一助とするとともに、市民の力の高まりを目指しています。

この運営審査委員会の3日前には、台風21号がふたたび西日本を襲い、前日には北海道で最大震度7を観測した北海道胆振東部地震が発生しました。

これまで、ボラサポは、特に大規模な地震災害において、ボランティア活動に対する資金サポートのニーズに対応するために実施してきましたが、全国でさまざまな規模や形の災害が多発していることに鑑み、大規模な地震災害以外の災害や平時の防災に関する取り組みなどにも対応できるよう、しくみや体制を整えることも視野に入れて協議を継続していきます。

1. 第1回応募状況と助成決定状況

8月3日から開始した第1回目の助成公募では、100件、合計3,838万円の応募がありました。

100件の応募のうち、4件は要件の不備により審査対象外となり、残りの96件を審査対象として審査を行いました。

今回の応募では、一番多かった活動内容が被災家屋内外の片付け、清掃でした。続いて物資の運搬、仕分け、提供、支援ネットワークの構築活動（支援拠点の設営、ボランティアなどのコーディネート）でした。

その活動地域は、全体の応募の13.2%が広島県安芸郡坂町、12.1%が岡山県倉敷市真備町、ついで

広島県呉市、岡山県倉敷市、愛媛県宇和島市の順でした。被災規模が大きかった広島・岡山・愛媛の3県内の複数市町村を活動地域としている応募もありました。

活動団体の所在地は、23都府県にわたり、全国から団体が被災地に駆けつけていました。最も多かったのは東京都(11.6%)ですが、ついで兵庫県10.5%、熊本県9.5%と、阪神・淡路大震災や熊本地震など、これまでの災害支援活動の経験・実績がある西日本の団体が、その知見を活かして活動していました。ボラサポやボラサポ九州で支援した団体が、災害支援のノウハウを蓄積して次の災害に活かしておられることが伺えました。

2. 選考にあたっての考え方

第1回の選考では、応募要項に記載したとおり、「審査にあたって重視する点」として、以下の7項目を定めました。

- ①目標や問題意識が明確になっているか
- ②プロジェクトを実施するための手法が明確で適切か
- ③さまざまな人たちの参加と協力が得られているか
- ④災害ボランティアセンター等現地の団体や現地に拠点を置く団体と連携や協働により活動が行われているか
- ⑤被災地で暮らす人たちの潜在的な力を引き出し、高めていこうとしているか
- ⑥被災地で新しい社会的事業・活動へと発展する可能性があるか
- ⑦「この先」を意識した活動であるか

また、発災時からの活動から遡っての助成も行うこととしており、活動団体や現地の状況を確認するため、必要に応じて聞き取り調査を別途させていただきました。

3. 今後の予定について

第2回目の募集要項の告知は9月下旬、応募受付期間は10月上旬～中旬で予定しています。

第2回の応募要項は、今回実施した短期の活動(30日以内、上限50万円)に加え、中長期の活動(31日以上、上限300万円)の助成募集も行う予定にしております。詳しくは本会ホームページに掲載する応募要項をご覧ください。(中央共同募金会ホームページ:<http://www.akaihane.or.jp/>)

「ボラサポ・豪雨災害」の助成の特色は、5名以上のグループでの応募が可能なことです。法人格の有無は問いません。次の社会を担う若い世代の皆さんをはじめ、多くの皆さまからの応募を期待しております。

最後となりましたが、発災直後より全国の個人・企業の皆さまより多くのご寄付をいただきました。深く感謝しますとともに、今回、助成が決定した団体の皆さまにおかれては、寄付者の方がたから託された貴重な財源による助成であることを理解いただき、有意義な活動を展開されるよう望みます。

赤い羽根「災害ボランティア・NPO 活動サポート募金・豪雨災害」
運営・審査委員会 委員長 山崎美貴子